

河合塾リモデルで めざす姿

河合塾は2023年度から、カリキュラムや指導の在り様を大きく再構築(リモデル)します。
リモデルの方向性やポイントを、
近藤修司・進学教育事業本部長から紹介します。

これまでの指導ノウハウを生かしながら 教育サービスをより深化

ウィズコロナにおける新しい生活様式への変化、世界情勢の変化、グローバル化やAIの技術革新など、社会はめまぐるしく変化しており、将来予測の難しい時代となっています。

今後直面するさまざまな変化に、子どもたち自身が主体的に向き合い、これからの社会の担い手となるべく、教育もこれまでの「何を教えるか」という教師側の視点から、「何ができるようになるか」という子どもの視点に立ったものに変わらねばなりません。

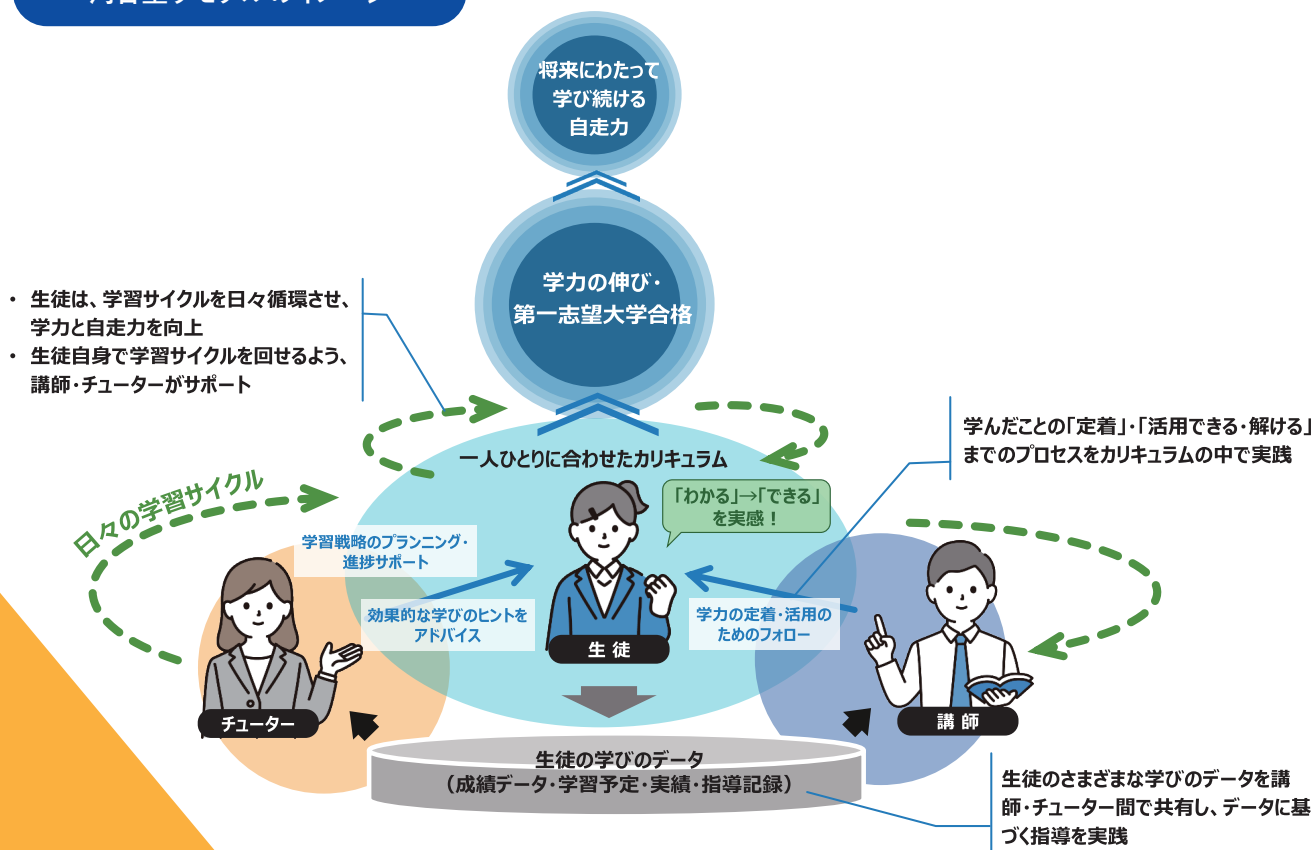
河合塾はこれまでも塾訓「汝自らを求めよ」の精神に則り、生徒一人ひとりの自己実現にこだわり続けてきました。それをさらに強固に支援すべく、「習得主義」の

考え方に立ち、教育サービスをより深化させることに挑んでいます。

これまでの強みである指導ノウハウを生かしながら、「学力」の枠組みを大きく捉えなおし、知識・技能、リテラシー、コンピテンシーに加えメタ認知を育むことをめざし、次の2つの方針でリモデルを進めています。

- 1 生徒一人ひとりによって異なる学習課題を解決する最新の学習サービスを提供し、彼らの将来の自己実現の第一歩である、第一志望大学への合格を確実に実現すること
- 2 生徒に徹底的に寄り添い、個々に最適な学びを提供することで、一人ひとりの自走を促し、将来にわたり学び続けるための考え方・価値観・学習法を身につけてもらうこと

河合塾リモデルのイメージ



これらの方針に沿って、ICTなども効果的に活用しながら、生徒一人ひとりと向き合う時間を授業以外にも増やし、学習全般・学ぶ姿勢までサポートしながら自己実現に関わっていきます。授業においても、従来型の予備校にはない、個別最適化された双方向型の新しいスタイルを導入し、一人ひとりの学力定着と伸長を確実に実現する仕組みを導入しました。

リモデルのポイント

1

最短ルートで合格へ 一人ひとりの特性に合わせたカリキュラム

志望大レベル別に最適な量・タイミングで、基本事項の習得から実戦演習まで取り組むコンセプトは継承し、個別最適化を図るべく、科目別・学力別にクラス編成を行いつつ、さらに各クラス、講座内においても一人ひとりの学習状況を講師がリアルタイムに把握し、支援できる仕掛けを盛り込んでいます。

また、年間を通したカリキュラムで必要な学びを継続していけるよう大学受験科・高校グリーンコース^(※)ともに年間受講回数(講数)を増加させます。特に、現役生は入試直結の実戦演習期間の拡充を図るため、高校グリーンコースの開講時期を4月から1月に前倒しします。現役生は受験勉強を始めるタイミングやその時の学習課題が生徒により異なるため、入塾時に丁寧なヒアリングと学力診断を行い、チューターと生徒が受験までの学習戦略を組み立てます。個々に最適なプランで学習し、志望大学合格へ最短ルートで到達できます。

2

講師が個々にアプローチし 学力を「定着」させ「活用できる・解ける」仕掛け

学んだことを確実に「定着」させ、「活用できる・解ける」を実現することをめざし、特に「定着」までのプロセスを生徒任せにせず、必ず講師・チューターが関わることにこだわりました。

大学受験科で新たに導入する「完全習得タイム」では、授業内容と連動した問題に取り組むことで、今の自分の理解度を把握し、講師からのアドバイスを通じて「活用できる・解ける」を体験。こうした体験の積み重ねが、生徒の学ぶ意欲を引き出し、学力アップの下地をつくると思います。先行導入している校舎では「講師がしっかり教えてくれるので復習のやり方がわかった」など生徒の反応も上々です。



河合塾 進学教育事業本部長 近藤修司

3

生徒の主体的な学びを促す学習実行支援

今回のリモデルに合わせて学習支援ツール「Studyplus」(スタディプラス=スタプラ)を導入しました。生徒は自学も含めた学習計画とその結果をスタプラで記録し振り返ることで、主体的に学ぶ習慣をつけていきます。

これまでチューターが合格まで生徒に寄り添う指導を重視してきましたが、スタプラを使うことで、生徒の学習状況全体を把握し、個々に最適な学習支援の実現を狙っています。チューターは学習記録と模試やテスト結果とを突き合わせ、より効果的な学びのヒントをアドバイス。従来の対面の指導に加えてチャットも活用し、生徒と向き合う頻度も増やしています。チューターは随時講師に生徒の情報を共有し、講師は一人ひとりの状況を確認しつつ授業に向かいます。

河合塾では、校舎チューターのみならず、教材作成、カリキュラム開発、広報などを担う全てのスタッフが、生徒を起点に行動するという指針のもと、リモデルに向けた準備を進めています。一人ひとりの生徒が自走力を高め、その先のありたい姿を実現するために。

※高校グリーンコース：現役生対象コース 大学受験科：高卒生対象コース